開催地名:埼玉県さいたま市大宮区	
開催日時	令和3年3月6日(土) 9:45 ~ 11:15
開催場所	大宮区役所(オンライン開催)
語り部	吉田 亮一 (宮城県仙台市)
参加者	大宮区内全自治会及び自主防災組織、防災アドバイザー 約 120 名
開催経緯	本区は、首都直下地震等による被害が想定されており、地域防災力の向上を図るため、自助や共助活動の中心となりうる自主防災組織結成促進を図っているところである。地域の方の防災意識には、関東平野内陸の大宮台地に位置する災害の少ない土地であることや、地域活動参加者の高齢化など、自主防災組織結成に消極的な地域もあるという課題がある。また、自主防災組織を結成した地域であっても、平常時の活動について何をしたらよいかわからないといった組織もあるため、語り部による講演会を実施し、地域の防災活動の促進に役立てたい。
内容	(1) はじめに 私は、平成17年より町内会の班長を務め、そこから地域防災に関する計画の 立案を始めた。今日は、そのあと平成18年に269世帯の町内会総括防災部長と なってから進めた5年間にわたる地域防災に関する取組を説明したい。 防災の基本は「想定以上の備え」をすることにある。平成17年度まで、仙台 市では訓練などの活動が一切行われていなかった。一方で、私の本職である保育 園では、法律により月に一度の防災訓練が義務づけられていた。また、保育園で

防災の基本は「想定以上の備え」をすることにある。平成17年度まで、仙台市では訓練などの活動が一切行われていなかった。一方で、私の本職である保育園では、法律により月に一度の防災訓練が義務づけられていた。また、保育園では独自の避難マニュアルがあったが、地域の指定避難所、小中学校には避難マニュアルの用意がなかった。そのことを危惧して、まずは市、県、自衛隊、気象台などあらゆる場所から情報を集めて避難マニュアルの作成を開始した。

まさかと思うような異常気象や災害も自然の一部であり、全て起こりうる現実である。だからこそ、想定以上の備えが必要となる。平成18年から、地域住民の方々には「想定外は言い訳」という言葉を伝えてきた。防災は危機感と想定以上の備えが基本なので、様々な自然災害に備えて、全ての責任者は最大の危機感と想定以上の備えで命を守ることを意識していただきたい。

(2) 平成18年から行われた5年間の活動

私たちは平成 18 年から、5 年計画を通じてあらゆる準備を進めた。まず、防 災マップの作成を進めた。これは地域が独自に行い、防災訓練や災害発生時用として活用した。次に防災マニュアルも、地域独自のものを作成した。この 2 つをセットにして、全世帯に配布した。経費については市の補助金は利用せず、町内会費から防災費として徴収した。

地域では消火班、救護班、救出班、避難誘導班、給食給水班、報告連絡班、警備班からなる自主防災組織を設立した。班長が一時避難所で災害状況を確認後、

それぞれの役割を担ってもらうためのものだ。持ち回りのため、5、6年もたて ばほとんどの世帯の人々が経験することになる。災害時にその班員がいなくて も、経験者が担えるようになった。

同時に、学校と連携してルールづくりも進めた。学校内の部屋の割り振りや細かい取決め、入室禁止の部屋など全てを決定した。実際に子どもたちに対しては、防災訓練のほかに子ども会を通じた勉強会などの機会も設けた。

また、定期的に行われた防災訓練では、働いている方には訓練のリーダーなどの役割を依頼しなかった。彼らは平日には地域におらず、土日も災害発生時は会社の復旧に追われるケースが多い。普段から自宅や地域にいる大人や高齢者、子どもたちが中心となって訓練を行ったのである。

さらに、指定避難所では、住民同士のトラブルが起きないよう、そして不審者などが入りづらくなるような「半島型避難所」も考案した。その一方、帰宅困難者が利用する広域避難所の案内サインなども整備していった。

(3) 震災でも機能する防災教育の重要性

一時避難場所や指定避難所は、地域住民での運営を徹底した。また、学校職員の方々は、児童、生徒の安否確認と、災害後の学校の立て直しに全力を尽くしてもらった。行政には被害状況を把握し、速やかな復旧・復興作業に取り組んでもらう必要があるが、指定避難所、一時避難場所に職員を割り当てれば、肝心な復旧、復興が遅れてしまう。その影響を受けるのは、ほかならぬ地域住民だろう。

こうした地道な活動を通じて、東日本大震災発生後の17日間を、地域の力だけで完遂できた。その際、小中学校の子どもたちも、両親や大人の指示に頼らずに避難所への移動や学校避難所の設営、自発的な改善提案ができていたのだ。これを実現させるためには、日頃からの地域、学校での防災教育が不可欠だと思う。





開催地より

東日本大震災前の防災活動や、震災時の避難所運営等、自主防災組織に関する 具体的な活動事例についてわかりやすく説明していただいた。我々の自治体も 都市部(内陸部)に立地する住宅地であるので、参考になる点が多かった。